

令和5年度

学習シラバス



第3学年
滑川町立滑川中学校

第3学年 国語科学習シラバス

1 学習目標

- 社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができる。
- 論理的に考える力や共感したり想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- 言葉が持つ価値を認識するとともに、読書を生活の役に立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

2 学習の進め方

- 3年生では、2年生で身につけた国語の学習の基礎・基本を応用し、自ら課題を発見したり、解決したりすることを重視した学習を行います。
- 知識・技能…・漢字の知識をさらに深める。・具体と抽象を表す情報の関係について理解を深める。
 - ・文章の種類とその特徴について理解を深める。　・今まで習った文法の総合的な活用。
 - ・意見と根拠、具体と抽象を使い分けられる。　・我が国の言語文化に関する知識を広げる。
 - 思考・判断・表現…・話すこと・聞くこと、書くこと、読むことに関する事柄について理解を深める。

3 評価の観点・評定の方法

評価の観点はA B Cの3段階です。	
知識・技能	社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりする。
○評価の方法	○定期テスト、スピーチ、作文（感想文、意見文等）、ワークシート等
思考・判断・表現	論理的に考える力や共感する力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりする。
○評価の方法	○定期テスト、言語事項、作文（感想文、意見文等）、聞き取りテスト、漢字テスト等
主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合う。
○評価の方法	○意欲的に授業に取り組む姿勢、ノートの記述、提出物の取り組み

評 定 学期末に1・2・3・4・5の5段階で示します

4 学習計画

学期	主な学習	学習の内容
1	<ul style="list-style-type: none"> ○深まる学びへ ○視野を広げて ○硬筆 ○情報社会を生きる ○言葉とともに ○読書生活を豊かに 	<ul style="list-style-type: none"> ・内容を理解したり表現したりするために必要な語句の量を増やし、語感を磨き語彙を豊かにする。 ・文章の種類や物語の展開の仕方などを捉える。 ・情報の信頼性の確かめ方を理解する。 ・具体と抽象、情報と情報の関係性について理解する。 ・2年時までに学習した漢字や文法事項について理解を深める。 ・硬筆ペンを使い、字形や文字のバランス、きれいに書きた

		<p>めの方法を理解する。</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> ○状況の中で ○自らの考えを ○いにしえの心を受け継ぐ ○価値を生み出す ○読書に親しむ ○書きぞめ 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の仕方を理解する。 ・文章を批判的に読みながら、ものの見方や考え方について理解する。 ・敬語などの相手や場に応じた言葉遣いを理解する。 ・歴史的背景などに注意しながら古典を読むことで、その世界に親しむ。 ・古典の文章を読み、批評し、考えたことを伝え合う。 ・毛筆の扱い方、行書について理解する。
3	<ul style="list-style-type: none"> ○未来へ向かって ○3年間の歩みを振り返ろう 	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通じて自己を向上させる。 ・語句や表現の工夫に着目して、筆者のものの見方や考え方を読み取る。 ・テーマや相手に応じて適切な文章の種類や表現を工夫する。 ・相手の立場を尊重しながら必要な情報を聞き取り、自分の考えを広げる。 ・3年間の総復習を行い、思考力、判断力表現力のさらなる深化を図る。 ・3年間の総復習を行い、言語事項における知識、技能の確かな定着を図る。

第3学年

数学科学習シラバス

1 学習目標

- 文字を用いた簡単な多項式について、式の展開や因数分解ができるようにするとともに、目的に応じて式を変形できるようにする。
- 数の平方根について理解し、目的に応じて計算したり式を変形できるようにする。
- 二次方程式について理解し、二次方程式を解くことや利用することができるようにする。
- 円周角の定理を理解し、それを利用できるようにする。
- 図形の性質を三角形の相似条件を基にして、観察、操作や実験を通して理解し、図形の性質を論理的に確かめ、表現できるようにする。
- 三平方の定理を見だし、証明できることを知り、それを利用できるようにする。
- 具体的な事柄を調べることを通して、関数 $y = ax^2$ について理解できるようにする。
- 関数関係を見だし、表現し考察する能力を伸ばせるようにする。
- 標本調査の必要性とその意味を理解し、標本調査ができるようにする。

2 学習の進め方

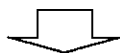
- 先生や発表者の説明をよく聞き、授業に集中し、今日学習したことは今日理解する。
- 分からないことをそのままにしないで、先生に質問しよう。
- 宿題は必ずやること。また、ワーク・整理と対策は毎時間持ってきて、時間のあるときに進めよう。
- 授業道具の忘れ物をしない。(教科書、ノート、ワーク、コンパス、三角定規、分度器等)
- 考え違いをそのままにせず、誤った考え方を頭の中に定着させないことが大切です。やり方を理解することと、繰り返し学習することが大切です。

3 評価の観点・評定の方法

評価の観点はA B Cの3段階です。

評価方法

知識・技能	数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解している。事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	⇒	学習への取り組み、定期テスト、授業中の課題など
思考・判断・表現	数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見だし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力をみにつけている。	⇒	学習への取り組み、定期テスト、授業中の課題
主体的に学習に取り組む態度	数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとしたり、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしていたりしている。	⇒	学習への取り組み、提出物(ワーク・テスト直しなど)



評定

学期末に1・2・3・4・5の5段階で示します。

4 学習計画

学期	おもな学習内容	学習のねらい
一学期	<ul style="list-style-type: none"> ○オリエンテーション ○式の展開と因数分解 <ul style="list-style-type: none"> ・単項式と多項式の乗法・除法 ・簡単な一次式の乗法の計算 ・乗法公式を用いた簡単な式の展開と因数分解 ○正の数の平方根 <ul style="list-style-type: none"> ・数の平方根の必要性和意味 ・数の平方根を含む簡単な式の計算 ・有理数と無理数 ・真の値と近似値 ○課題学習 	<ul style="list-style-type: none"> ・数学の授業の目標、内容、評価などについて確認する。 ・多項式と単項式の乗法の計算ができるようにする。 ・多項式を単項式で割る除法の計算ができるようにする。 ・簡単な一次式の乗法の計算ができるようにする。 ・乗法公式を理解し、それを用いた簡単な式の展開や因数分解ができるようにする。 ・数の平方根の必要性和意味を理解する。 ・数の平方根を含む簡単な式の計算ができるようにする。 ・有理数と無理数の意味を理解する。 ・数学的な見方や考え方を身に付ける。
二学期	<ul style="list-style-type: none"> ○二次方程式 <ul style="list-style-type: none"> ・二次方程式の必要性 ・二次方程式の解の意味 ・簡単な二次方程式を解くこと ・解の公式を使った解法 ・二次方程式の利用 ○関数 $y = ax^2$ <ul style="list-style-type: none"> ・事象と関数 $y = ax^2$ ・関数 $y = ax^2$ のグラフと値の変化の割合 ・関数 $y = ax^2$ の利用といろいろな関数 ○課題学習 ○図形と相似 <ul style="list-style-type: none"> ・図形の相似の意味 ・三角形の相似条件と証明 ・平行線と線分の比についての性質 ・中点連結定理 ・相似の考え方の活用 ・相似な図形の計量 ○課題学習 ○円の性質 <ul style="list-style-type: none"> ・円周角の定理とその逆 	<ul style="list-style-type: none"> ・二次方程式の必要性を理解する。 ・二次方程式の解の意味を理解する。 ・簡単な二次方程式を解くことができるようにする。 ・具体的な問題解決に、二次方程式を利用できるようにする。 ・事象の中には関数 $y = ax^2$ としてとらえられるものがあることを理解する。 ・関数 $y = ax^2$ の特徴と関数の取る値の変化の割合について理解する。 ・いろいろな関数について理解する。 ・数学的な見方や考え方を身に付ける。 ・図形の相似の意味を理解する。 ・三角形の相似条件を用いて、図形の性質を論理的に確かめることができるようにする。 ・平行線と線分の比について性質を見だし、それを確かめることができるようにする。 ・相似な図形の相似比と面積比・体積比の関係を理解する。 ・数学的な見方や考え方を身に付ける。 ・円周角と中心角の関係を理解する。 ・等しい弧に対する円周角の意味を理解する。
三学期	<ul style="list-style-type: none"> ○三平方の定理とその利用 <ul style="list-style-type: none"> ・三平方の定理とその証明 ・三平方の定理の意味 ・三平方の定理の利用 ○課題学習 ○標本調査 <ul style="list-style-type: none"> ・標本調査 ○1年間のまとめ ○3年間のまとめ 	<ul style="list-style-type: none"> ・三平方の定理を見だし、それが証明できることを理解する。 ・三平方の定理の意味を理解し、それを利用できるようにする。 ・数学的な見方や考え方を身に付ける。 ・全数調査を行うことが困難な場合、標本調査の必要性とその意味を理解する。 ・1年間の学習内容の整理する。 ・3年間の学習内容の整理する。

第3学年 社会科学習シラバス

1 学習目標

- 歴史的事象に対する関心を高め、我が国の歴史の大きな流れと各時代の特色を世界の歴史を背景に理解する
- 基本的人権の意義を正しく認識し、民主主義に関する理解を深めるとともに、国民主権を担う公民としての必要な基礎的教養を培う。
- 国際社会において大きな役割を担う日本の在り方を考え、国際社会に生きる民主的、平和的な国家・社会の形成者として必要な公民的な資質の基礎を身に付ける。
- 社会の諸問題に着目し、現代の社会的事象に対する関心をもちながら課題を追求し、自ら考えようとする態度を育てる。

2 学習の進め方

- 1 社会科は、自ら課題を見いだして自ら解決していくことを学習する教科です。学習する形は個人のときもあり、班で活動することもあります。
- 2 授業は教科書やプリントなどを活用しながら、自分の考えをまとめます。
- 3 新聞や映像など現代の社会事象に関する様々な資料から、現代の社会事象に対する関心を高め、課題を見だし、公正に判断する力を育てる。

3 評価の観点・評定の方法

評価の観点はA B Cの3段階です。

評価方法

知識・技能	我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係などに関して理解しているとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめている。	➔	<ul style="list-style-type: none"> ・定期テスト ・レポート ・観察、実験 ・ワークシート
思考・判断・表現	社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したり、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論している。	➔	<ul style="list-style-type: none"> ・発表の様子や発表内容 ・ワークシート ・課題レポート ・定期テスト ・グループでの活動の様子
主体的に学習に取り組む態度	社会的事象について、国家及び社会の担い手として、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとしている。	➔	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の発言、態度 ・ノート、レポートへの取組 ・自己評価 ・相互評価

評定 学期末に1・2・3・4・5の5段階で示します。

4 学習計画

学 期	おもな学習内容	学習のねらい
一 学 期	<p>＜歴史的分野＞ 二度の世界大戦と日本 ・第一次世界大戦と日本 ・大正デモクラシーの時代 ・世界恐慌と日本の中国侵略 ・第二次世界大戦と日本</p> <p>現代の日本と世界 ・戦後日本の出発 ・冷戦と日本の発展 ・新たな時代の日本と世界</p> <p>＜市民的分野＞ 現代社会とわたしたち ・現代社会の特色とわたしたち ・わたしたちの生活と文化 ・現代社会の見方や考え方</p> <p>人間の尊重と日本国憲法 ・人権と日本国憲法 ・人権と共生社会 ・これからの人権保障</p>	<p>・経済の変化の政治への影響、戦争に向かう時期の社会や生活の変化、世界の動きと我が国との関連などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、第一次世界大戦前後の国際情勢と大衆の出現、第二次世界大戦と人類への惨禍について、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現する。</p> <p>・戦後の日本の歴史と家族などの個人の歴史のかかわりについて考え、関心を持てるようにする。</p> <p>・現代社会の成り立ちを概観し、現代社会の特色に気づく。 ・高度経済成長以降の日本の発展の過程を、衣食住などの生活や生活意識の変化などと関連させて理解する。</p> <p>・日本国憲法の基本原則についての理解を深め、国民主権の意義と天皇の地位について理解する。 ・現代社会における差別や人権問題に気づかせ、差別をなくし、ちがいを認めてともに生きる社会の実現について考える。</p>
二 学 期	<p>現代の民主政治と社会 ・現代の民主政治 ・国の政治のしくみ ・地方自治と私たち</p> <p>わたしたちの暮らしと経済 ・消費生活と市場経済 ・生産と労働 ・市場経済の仕組みと金融 ・財政と国民の福祉 ・これからの経済と社会</p>	<p>・現代日本の政治に関心を持たせ、将来の主権者としての自分を自覚し、すすんで政治にかかわっていかうとする態度を育てる。 ・議会制民主主義の意義について考えさせ、選挙をはじめとする国民の政治参加によってよりよい民主政治が行われることに気づく。 ・地方自治の意義やしくみを理解する。</p> <p>・消費生活を中心に経済活動の意義を理解させるとともに、市場経済の基本的な考え方や現代の生産のしくみのあらましについて理解する。 ・身近で具体的な事例を通して、現実の経済に対する関心をもたせ、今日の経済のしくみや働きについて理解する。 ・労働問題、社会福祉、環境問題について国や地方公共団体がはたしていることがらのあらましを理解させ、それらのもつ経済的な役割について考える。</p>
三 学 期	<p>地球社会とわたしたち ・国際社会の仕組み ・さまざまな国際問題 ・これからの地球社会と日本</p>	<p>・国際社会のかかえている地球的、人類的な課題の内容と、その解決のためにどのような努力がされているか理解する。 ・現代の国際社会に対する関心を高め、世界平和の実現と人類福祉の拡大のために、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことが重要であることを認識する。</p>

第3学年

理科学習シラバス

1 学習目標

- 身近な自然の事物や身のまわりの現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。
- 観察・実験などを行い、科学的に探求する力を養う。
- 自然の事物や現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

2 学習の進め方

- 1 日常生活とのかかわりを考えながら授業を行います。
- 2 観察・実験を通して規則性を考えていきます。
- 3 観察・実験は少人数（2人～4人程度）で行います。
- 4 観察・実験結果や考察をノートや実験プリントにまとめて提出します。

3 評価の観点・評定の方法

評価の観点はABCの3段階です。

評価方法

①知識・技能	自然事象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに科学的に探究するために必要な観察・実験に関するきほんてきな基本操作などの技能を身につけている。	⇒	①観察・実験のようす 実験プリント 基礎操作の実技テスト 定期テスト 单元ごとの小テストなど データ処理など
②思考・判断 表現	自然事象から問題を見出し、見通しをもって観察、実験を行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	⇒	②実験プリントの記述分析など 定期テストなど 調べ学習などのレポート
③主体的に学 習に取り組む 態度	自然事象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	⇒	③実験プリント 授業での発表内容 レポート 授業の課題に向かう姿勢

評定 学期末に1・2・3・4・5の5段階で示します。

学 期	おもな学習内容	学習のねらい
一 学 期	化学変化とイオン ○水溶液とイオン ・水溶液に電流が流れるか ・イオンと原子のなり立ち ○酸、アルカリとイオン ・水溶液の酸性、アルカリ性 ・酸とアルカリの水溶液を混ぜる ○化学変化と電池 ・電解質の水溶液と金属板から電流を取り出す・電池の中で起こる変化 ・身のまわりの電池 生命の連続性 ○生物の成長と生殖 ・生物の成長と細胞の変化・植物・動物の生殖・無性生殖と有性生殖 ○遺伝の規則性と遺伝子 ・遺伝の規則性・遺伝子やDNA ・生物の多様性と進化	○電流を流す水溶液と電流を流さない水溶液の違いを説明することができる。 ○身のまわりでは、どのような電池が使われているかを理解する。 ○酸性とアルカリ性の水溶液の性質について説明できる。 ○酸性、アルカリ性と中和についてイオンで説明できる。 ○体細胞分裂の観察を行い、その過程を確かめ、細胞の分裂を生物の成長と関連づけて理解する。 ○有性生殖と無性生殖の特徴を説明できる。 ○親の形質が子に伝わるときの規則性を理解する。 ○遺伝子の正体を知る
二 学 期	運動とエネルギー ○物体のいろいろな運動 ・運動している物体・運動の記録 ・運動の変化と力・だんだん遅くなる運動・等速直線運動 ○力の規則性 ・2力のつり合い・力の合成と分解 ・慣性の法則・作用・反作用の法則 ・力と運動の関係・水圧、浮力 ○エネルギーと仕事 ・物体がもつエネルギー・力学的エネルギー・仕事とエネルギー ・小さな力で大きな仕事はできるか 地球と宇宙 ○地球の運動と天体の動き ・天球と方位、時刻・地球の自転と天体の動き・星座の1年の動き ・季節の変化 ○月と惑星の見え方 ・月の満ち欠け・日食と月食 ○宇宙の広がり ・銀河系と太陽系・太陽 ・太陽系の天体 ・惑星の見え方	○記録タイマーを利用して運動の速さを測定できる。 ○物体の運動についての観察・実験を行い、運動には速さと向きがあることを知る。 ○速さや向きが変わる運動や、等速直線運動について、観察・実験を通して理解する。 ○仕事に関する実験を行い、仕事と仕事率について理解する。 ○力学的エネルギーに関する実験を行い、運動エネルギーと位置エネルギーが相互に移り変わることを、力学的エネルギーの総量が保存されることを理解する。 ○電気・熱・光・音などがエネルギーであることを説明できる。 ○身近な天体の観察を通して、地球の運動について理解する。 ○太陽や惑星の特徴や月の運動と見え方を理解する。 ○太陽系や恒星など宇宙についての認識を深める。
三 学 期	自然と人間 ○自然のなかの生物 ・生態系とは ・生態系における生物の役割 ・炭素の循環 ○自然環境の調査と保全 ・人間による活動と自然環境 ・自然環境の開発と保全 ○科学技術と人間 ・さまざまな物質とその利用 ・エネルギー資源の利用 ○持続可能な社会をつくるために	○自然環境を調べ、自然界における生物相互の関係や自然界のつり合いについてを理解する。 ○自然と人間のかかわり方について認識を深め、自然環境の保全と科学技術の利用のあり方について科学的に考察し判断する態度を養う。 ○エネルギー資源の利用、科学技術の発展と人間生活のかかわりについて認識を深める。 ○自然環境の保全と科学技術の利用のあり方について科学的に考察し判断する態度を養う。

第3学年

英語学習シラバス

1 学習目標

- はっきりと話されれば、社会的な話題について、短い説明の要点をとらえることができる。
- 社会的な話題について、簡単な語句や文で書かれたまとまりのある文章の要点をとらえることができる。
- 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを簡単な語句や文を用いて述べ合うことができる。
- 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを簡単な語句や文を用いて話すことができる。
- 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを簡単な語句や文を用いて書くことができる。

2 学習の進め方

読んだことや聞いたことについて自身の感想や意見を述べる力を育てるため、3年生では社会的な話題も取り上げながら、文章を読み取る力とそれに対する意見や気持ちを相手と述べ合うことに注力します。より高度な語句や文法に関する知識を培うことはもちろん、自分の意見やその理由を表すのに最も適切な表現を自分で選べるよう、1、2年次に学習した語句や表現の復習を徹底します。また、自国と海外の文化の違いに着目し、相手を尊重した英語表現の在り方を学習します。

3 評価の観点・評定の方法

評価の観点はABCの3段階です。

評価方法

①知識・技能	正しい語句や文法の特徴やきまりを理解している（知識） 言葉の特徴やきまりを理解して、正確に表すことができる（技能）	⇒	①言語の正確さを図ります。 ・パフォーマンステスト ・ワークシート ・活動観察 ・ペーパーテスト など
②思考・判断 表現	状況、場面に応じて、日常的な話題や社会的な話題について情報を整理したり、伝え合ったりすることができる。	⇒	②内容の適切さを図ります。 ・パフォーマンステスト ・ワークシート ・活動観察 ・ペーパーテスト など
③主体的に学習に取り組む 態度	技能、表現力を身に付けるための粘り強い取り組みや、自らの学習状況を把握し、学習の進め方を試行錯誤するなど調整しながら学ぶ態度が備わっている。	⇒	③学習への主体的な姿勢を図ります。 ・パフォーマンステスト ・定期テスト振り返りシート ・ポートフォリオ ・活動観察 ・ワークシートなど

評定

学期末に1・2・3・4・5の5段階で示します。

4 学習計画

学 期	おもな学習内容	学習のねらい
一 学 期	Unit0 Three Interesting Facts about Language Unit1 Sports for Everyone Unit2 Haiku in English Unit3 Animals on the Red List Stage Activity 1 My Activity Report	1, 2年生で学習したことの振り返り これまでに経験したことにもとづいて、相手に合ったプランを伝えることができる ずっと好きなことや、これまで取り組んできたことについて伝え合うことができる 自分の意見や考えを加えて記事を書くことができる これまでの経験を振り返って活動報告を発表しよう
二 学 期	Unit4 Be Prepared and Work Together Unit5 A Legacy for Peace Stage Activity 2 Discover Japan	標識が何を意味しているかを説明することができる 人やものについて詳しい情報を加えて説明することができる 日本の郷土や文化などを紹介する文を詳しい情報を加えながら説明しよう
三 学 期	Unit6 Beyond Borders Stage Activity 3	架空の状況について説明したり、感想や意見を述べたりすることができる 主張とその理由を明確にしながらいびべートをしよう

令和5年度 滑川中学校 音楽科シラバス (第3学年)

1 学習目標

- 曲想と音楽の構造や背景などとの関り及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付けるようにする。
- 曲にふさわしい音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。
- 主体的・協同的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、音楽に親しんでいく態度を養う。

2 学習の進め方

- 1 歌唱では、基礎・基本的な西洋や日本の発声方法を理解し習得すると共に、独唱や斉唱、各パート別の練習を通し、ハーモニー作りや曲想と歌詞の相関性を意識させながら練習をします。
- 2 器楽では、ギター・打楽器・箏を中心とした器楽活動をします。
- 3 創作では、歌詞の抑揚に沿った旋律をつくったり、リズムを組み合わせる情景や様子などを表現したりなど、イメージしたことを音で自由に表現する活動を行います。
- 4 鑑賞では、音楽を形づくっている要素や曲の構造と曲想の関わりなどを発見して様々な音楽を聴きます。

3 評価の観点・評価方法

評価の観点はA・B・Cの三段階です

評価方法

知識・技能	音楽を表現するための基礎的な知識・技能を身に付けている。	⇒	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の取り組み ・実技テスト ・定期テスト ・提出物
思考・判断・表現	音や音楽のよさや美しさを感じ取り、それらを音楽活動の中で創意工夫して生かしている。	⇒	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の取り組み ・歌唱・器楽・創作・鑑賞 ・実技テスト ・定期テスト
主体的に学習に取り組む態度	音や音楽への興味・関心を持って、意欲的に表現しようとする。	⇒	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中での様子 ・授業道具の忘れ物有無 ・提出物の状況 ・授業中の取り組み ・実技テスト ・定期テスト

評定	学期末に1・2・3・4・5の5段階で示します。
----	-------------------------

4 学習計画

学 期	おもな学習内容 〈学校行事との関わり〉	学 習 の ね ら い
1 学期	<p>○日本の歌を味わおう。(歌唱)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌曲「花」 ・歌曲「花の街」 <p>○オーケストラの豊かな響きを味わおう。(鑑賞)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交響詩「わが祖国」より ブルタバ ・バレエ音楽「ボレロ」 <p>○詩に旋律を付けよう(創作)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本歌曲の歌詞の内容や、曲想の表現を工夫して歌うことができる。 ・曲想の変化を感じ取り、曲種に合った発声法で歌うことができる。 ・音楽の様々な要素の働きから生み出されるオーケストラの雰囲気や曲想を理解して表現の美しさを味わう。 ・各標題を手がかりにして楽器の音色や音楽の様々な構成要素を聴き取り、楽曲を味わって聴くことができる。 ・音楽が人間生活や文化との関わりをもっていることを理解して、聴き取ることができる。 ・言葉や音階の特徴を生かし、詩にふさわしい表現を工夫する。
2 学期	<p>○曲に合った表現を工夫しよう。 〈校内合唱コンクール〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年合唱曲 3年生「大切なもの」 ・各クラスの合唱曲 <p>○日本の音楽に親しもう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌舞伎「勧進帳」 <p>○能と狂言の魅力を味わおう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・能「隅田川」 ・狂言「附子」 	<ul style="list-style-type: none"> ・パートの決定とリーダーの選出 ・混合拍子の指揮になれて歌唱表現ができる。 ・声部の役割と全体の響きとの関わりを理解し、曲にふさわしい表現を工夫して歌う。 ・いろいろな合唱曲に取り組み、表現力を高めることができる。 ・歌詞の内容の理解と表現の工夫ができる。 ・明確な美しい発音の工夫ができる。 ・日本の伝統音楽である雅楽の特徴と時代背景を味わって聴くことができる。 ・能の発声法を言葉の特性を生かして歌うことができる
3 学期	<p>○ポピュラー音楽の魅力を味わおう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジャズ、ボサノヴァ、ロック、サンバ、マンボ <p>○ギターの基本的な奏法を理解し、簡単な曲を弾こう。</p> <p>○音楽で気持ちを伝えよう 〈卒業式〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国歌、校歌 ・卒業式合唱曲 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々なルーツで誕生したポピュラー音楽の奥深さを感じ取り、複数の楽曲を比較鑑賞することで特徴を聴き分けることができる。 ・姿勢や構え方を意識し、ストローク奏法やアポヤンド奏法等の響きを感じ取り、実際に弾くことができる。 ・歌詞の内容や曲想を味わい、声部の役割と全体の響きとの関わりを理解し、楽曲にふさわしい表現を工夫して歌う。 ・卒業式に向けて心豊かに歌唱表現をすることができる ・明確な発音と豊かな響きを持った歌声で混声合唱をし、共通の感動体験を味わうことができる。

第3学年 美術科 シラバス

1 学習目標

- 美術科では、制作活動、鑑賞を通して美術を愛好する心情を育てること、また生涯学習として役立つ技術を習得することを目指しています。
- 絵画や彫刻、デザインや工芸、鑑賞の各分野について、基礎基本を習得します。
- 美術文化について理解を深め、豊かな情操を養います。

2 授業の基本・学習の進め方

- 1 普段から様々な体験をし、豊かな人生を送ることを心がける。
- 2 決まりや安全を守り、その上で自由に発想する。
- 3 自分の表現を大切にし、他の表現を尊重する。
- 4 真剣に、最後まで突き進む。
- 5 必要のない動きはせず、準備は休み時間中に、片付けは授業中に終わらせる。
- 6 授業はできるだけ休まない。休んだら、先生や友達に授業内容を必ず確認する。
- 7 美術系の連絡を注意して聞く。前日までに必要な道具を準備する。

3 評価の観点・評定の方法

評価の観点はABCの3段階です。			評価方法
① 知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・対象や事象を捉える造形的な視点について理解している。 ・意図に応じて表現方法を工夫して表している。 	⇒	作品の完成度(絵画、デザイン、彫刻、工芸など課題によって求められる技能が変わります)、小テスト、ワークシート、技能テスト等
② 思考・判断・表現	自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、機能性と美しさとの調和、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を広げたりしている。	⇒	作品そのものから読み取れる発想の豊かさや表現の工夫、アイデアスケッチ、ワークシート、鑑賞授業の感想文、自分の作品の説明文、友達の作品へのコメント等
③ 主体的に学習に取り組む態度	美術の創造活動の喜びを味わい楽しく表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	⇒	制作態度全般(発言、文章の記述量や質、忘れ物、集中して取り組んでいるか、完成させ期限を守ったか等)

評 定

学期末に1・2・3・4・5の5段階で示します。

4 学習計画

学期	おもな学習内容	学習のねらい
1 学 期	○空想の世界	<ul style="list-style-type: none"> ・夢、想像や感情などの空想や心に広がる世界などを考えたり広げたりしながら主題を生み出し構想を練れる。 ・絵の具などの特性を生かし、意図に応じて創意工夫して表せる。
2 ・ 3 学 期	○抽象表現への挑戦 ～こころのかたち～ ○美術を通して私たちが学ぶこと	<ul style="list-style-type: none"> ・抽象彫刻の作品の造形的な特徴などから何かに見立てたり、心情などと関連付けたりしながらイメージで捉えることを理解できる。 ・複数の視点から対象を深く見つめたり、本質について想像したりして主題を生み出せる。 ・主題を基に、単純化や省略、強調、形や質感、重心などを考え、内面や本質を捉え直しながら構想を練れる。 ・材料や用具を関連付けたり総合的に扱ったりするなどして生かしながら創造的に表せる。 ・作者が作品を通じて訴えたいことは何なのか、時代や社会的背景なども視野に入れて作者の心情や表現の意図と創造的な工夫について考え、意見を持てる ・社会における美術の力について理解できる。

第3学年 保健体育科学習シラバス

1 学習目標

- 技能： 各運動の特性に触れて運動の楽しさや喜びを味わうとともに、運動を実践することで体力や知識、技能を高め、生涯にわたって運動を実践することができるようにする。
- 態度： 公正に取り組む、互いに協力する、自己の役割を果たす等の意欲を育てるとともに、健康・安全に留意しながら運動をする態度を育て生涯にわたって運動に親しむ態度を育てる
- 学び方： 各運動の特性と自己の能力に応じて課題解決に向けて、主体的・協働的に学ぶ学習（アクティブ・ラーニング）を行えるように工夫する。

2 学習の進め方

- 男女共習が基本
- 授業規律（欠席・見学をしない、忘れ物をしない、授業に遅れない、正しい服装、きびきびとした動作）を大切にする
- 学習カードを重要なものと認識し、提出はもちろん内容についても工夫する
- 運動や健康・安全について留意しながら、積極的に取り組む
- 仲間と協力し、励まし合い、教え合い、お互いを高め合う活動にしていく

3 評価の観点・評定の方法

評価の観点はA B Cの3段階です。

評価方法

①知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・運動や健康・安全についての知識を正しく理解している。 ・各運動の技能を身につけ、実践できる。 	➡	<ul style="list-style-type: none"> ・運動のルールを理解 ・技能の仕組みの理解 ・保健の内容の理解 ・期末テスト ・各運動の技能の習熟度 ・授業中の指示、教わったことを身につけられたか
②思考・判断・表現	運動の仕方を工夫し、技能の向上や健康・安全について正しく判断することができる。	➡	<ul style="list-style-type: none"> ・学習カードや活動時に見える自己の運動技能や取り組みに対しての考え方
③主体的に学習に取り組む態度	意欲的に授業に参加し、運動の特性を積極的に味わおうとしている。	➡	<ul style="list-style-type: none"> ・運動に対して一生懸命取り組もうとする態度 ・授業に対する意欲的な姿勢

評定 学期末に1・2・3・4・5の5段階で示します。

4 学習計画

学 期	おもな学習内容	学習のねらい
一 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ○体育理論 ○体づくり運動 ○陸上競技Ⅰ 短距離走・リレー ○球技Ⅰ 選択 ソフトテニス バレーボール ソフトボール ○水泳 クロール・平泳ぎ 複数の泳法またはリレー 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動に対する理解を深めることができる ・体づくり運動の必要性を理解し、意欲的に取り組むことができる ・体力テストで自己の体力を知り、課題を知ることができる ・自己の能力を知り、記録を伸ばすための工夫をすることができる ・チームでバトンパスの方法などを工夫し、記録の向上を目指すことができる ・作戦に応じたボール操作で仲間と連携してゲームが展開できる ・ルールを守り、安全に留意して練習やゲームができる ・自己の泳力の程度を知り、泳力に応じた課題に意欲的に取り組むことができる
二 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ○体づくり運動 ○保健 ○ダンス 現代的なリズムのダンス ○陸上Ⅱ（走り幅跳び・ハードル） ○球技Ⅱ 選択 バスケットボール サッカー 	<ul style="list-style-type: none"> ・体力の高め方について理解することができる ・自己の体力を高める運動の方法を理解し、工夫をするとともに、積極的に取り組むことができる ・健康な生活を送るために大切なことを理解できる ・仲間と協力し、意見を交換しながら技能を高め、積極的に活動できる ・自己の能力を知り、記録を伸ばすための工夫をすることができる ・チームの作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームが展開できる ・ルールを守り、安全に留意して練習やゲームができる
三 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ○球技Ⅱ 選択 卓球 ハンドボール バドミントン ○保健 健康な生活と疾病の予防 ○体づくり運動 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な個人技能を習得し、グループ・ペアで協力し合い ・生活習慣病や感染症などの疾病について理解し、その予防に必要な正しい知識を身につける ・体力の高め方について理解することができる ・自己の体力を高める運動の方法を理解し、工夫をするとともに、積極的に取り組むことができる

第3学年 技術・家庭科学習シラバス

1 学習目標

生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働かせ、生活や技術に関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

○技術分野の目標

技術の見方・考え方を働かせ、ものづくりなどの技術に関する実践的・体験的な活動を通して、技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

○家庭分野の目標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

2 学習の進め方

「技術分野」および「家庭分野」の2分野で構成されています。技術分野の内容は、A「材料と加工に関する技術」 B「生物育成に関する技術」 C「エネルギー変換に関する技術」 D「情報に関する技術」、家庭分野の内容は、A「家族・家庭生活」 B「衣食住の生活」 C「消費生活・環境」で構成されています。

【技術分野】

A「材料と加工に関する技術」の学習では、設計から製作まで自分で考え、いろいろな材料を使って生活に役立つものを完成させます。

B「生物育成に関する技術」の学習では、生物育成の生育条件、技術等を学び、育成生物を計画的に育てることができるような学習をします。

C「エネルギー変換に関する技術」の学習では、エネルギー変換に関する基礎的・基本的な知識や技術を習得し、生活に役立つ簡単な電気製品の制作を行います。

D「情報に関する技術」の学習では、情報化社会のなかで生活の道具として利用されるコンピューターを使って、情報の収集や発信をし、適切に活用できる能力を育成します。

【家庭分野】

・「衣食住の生活」の学習では、衣服の手入れ、食生活について、補修、室内環境の設備と住まい方について、実践・体験をし、生活に役立つ事を身につけます。

・「家族・家庭生活」の学習では、自らの成長を振り返り、幼児の観察や遊び道具の製作、幼稚園訪問を通して、家族や家庭生活との関わりができる能力の育成をします。

3 評価の観点・評定の方法

評価の観点はABCの3段階です。

評価方法

知識及び技能	家族・家庭の基本的な機能について理解を深め、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	➡	<ul style="list-style-type: none"> ・定期テスト ・レポート ・製作作品
思考、判断、表現	こらからの生活を展望し、家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	➡	<ul style="list-style-type: none"> ・定期テスト ・ワークシート ・製作作品 ・ポートフォリオ
主体的に学習に取り組む態度	家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。	➡	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への取り組み ・ワークシート ・ポートフォリオ

評 定	学期末に1・2・3・4・5の5段階で示します。
-----	-------------------------

4 学習計画

学期	おもな学習内容	学習のねらい
学期ごとに授業	<p>＜1・3・5組：1学期 技術 2・4組：1学期 家庭科＞</p> <p>＜1・3・5組：2学期 家庭科 2・4組：2学期 技術＞</p> <p>＜2学期期末テスト以降は残り時間数を考慮して半分ずつ行います＞</p> <p>「家庭分野」</p> <p>A 家族・家庭生活</p> <ul style="list-style-type: none"> ●わたしの成長と家族 ●幼児の生活と遊び ●幼児とのふれ合い ●わたしたちと家族・家庭と地域 ●これからのわたしと家族 	<p>自分の成長を振り返り、わたしたちが家族や家庭生活とどのように関わってきたのかを学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児の生活に関心を持ち、課題をもって幼児の生活に役立つ物を作ることができる。 ・幼児の観察や遊び道具の製作を通して幼児の遊びの意義について考えることができる ・幼児の心身の発達の特徴を知り、子供が育つ環境としての家族の役割について考えることができる。
	<p>「技術分野」</p> <p>D 情報に関する技術</p> <ul style="list-style-type: none"> ●画像と文字を編集してみよう ●デジタル作品の設計と製作 ●マルチメディアの活用 <ul style="list-style-type: none"> ・画像を編集してみよう2 ・情報モラルについて考えよう。 ●情報通信ネットワークの利用 ●インターネットで情報を見よう ●電子メールで情報を交換してみよう。 ●プログラムによる計測・制御 ●情報に関する技術とわたし 	<p>コンピュータ活用等に関する基礎的な知識と技術を習得する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ソフトウェアを用いて表の入力ができる。 ・マルチメディアを活用するうえでの情報モラルについて考えることができる。 ・マルチメディアを使った表現手順について考えることができる。 ・情報の形式とレイアウトを考えることができる。 ・画像処理ソフトウェアを使って画像を処理する方法について知ることができる。 ・デジタルカメラ等を使って画像をコンピュータに取り入れ、画像処理することができる。 ・電子メールの正しい使い方ができるようにする。 ・映像編集などを通して、簡単なプログラムを組むことができるようにする。 ・現代社会における情報の有用性と危険性について考えることができる。